



古河機械金属グループ

編集方針

古河機械金属グループは、財務情報である「有価証券報告書」、ESG情報である「コーポレート・ガバナンス報告書」と「CSR報告書」を結合した株主・投資家向けの発行物として「アニュアルレポート(統合報告書)」を作成しています。株主・投資家の皆様にとって必要な情報を網羅しつつ、当社グループの統合的思考や戦略・施策をより正確にご理解いただくためのものです。

なお、当社グループのWebサイトでは、これら報告書のほか、決算短信や決算説明会資料等の各種ツールを通じて、適時・適正に情報を開示しています。

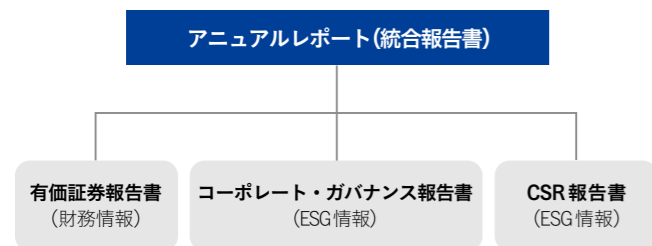


<https://www.furukawakk.co.jp/ir/library/>



対象期間

2020年4月～2021年3月(一部当該期間前後の活動も含む)



将来の見通しに関する注意事項

本アニュアルレポート(統合報告書)に記載されている当社グループの計画、戦略、および将来の見通しは、現在入手可能な情報に基づき、当社グループが現時点で合理的であると判断したものであり、様々なリスク・不確実性を含んでいます。そのため、実際の業績はこれらの不確定な要素の変動により、開示した業績予想と大きく異なる可能性があります。

目次

古河機械金属グループについて	1
古河機械金属グループの価値創造プロセス	2
会長メッセージ	4
トップインタビュー	5
特集：CSVの視点を織り込んだマーケティング経営の取り組み	10
事業概況	12
トピックス	18

ESG関連情報

古河機械金属グループのESG	19
CSR/ESG課題	20
CSVの視点を織り込んだ「マーケティング経営」	21
ESGクローズアップ	22
コーポレート・ガバナンス	24
独立社外取締役からのメッセージ	27
取締役および監査役	28
リスクマネジメント	30
コンプライアンス	31
環境(E)への取り組み	32
社会(S)への取り組み	33

財務関連情報

11年間の主要データ(連結)	34
財務報告(財政状態、資本政策、経営指標分析、事業等のリスクなど)	38
会社概要	46
沿革	47

古河機械金属グループについて

創業146周年を迎えた古河機械金属グループの発展の礎は、創業者である古河市兵衛が着手した足尾銅山開発に始まります。以来、当社グループは銅山開発で培った技術を時代の要請とともに進化・発展させ、現在の「機械事業」と「素材事業」につなげてきました。そして今、当社グループが得意としてきた高いシェアを有するニッチな製品に一層重点を置き、独自の技術とこれまでの経験を生かし、CSV^{※1}の視点を織り込んだ「マーケティング経営」^{※2}を実践すべく取り組みを強化しています。特にコア事業と位置づける「機械事業」では、市場ニーズに対応するとともに、社会インフラ整備向けに事業展開を進めています。

当社グループは、「社会に必要とされる製品」を提供し続けることで、様々な「社会課題」を解決し「持続可能な社会の実現」に貢献すべく、創業150周年を迎える2025年度へ向け、更なる成長を目指した2025年ビジョン「FURUKAWA Power & Passion 150」^{※3}の実現に、日々努力し続けていきます。



足尾銅山(1920年頃)

※1 「CSV(Creating Shared Value: 共通価値/共有価値の創造)」
企業が社会問題や環境問題などに関わる社会課題に取り組み、「社会価値」と「企業価値」を両立させようとする経営フレームワーク。

※2 「マーケティング経営」
「マーケティング経営」という言葉に、マーケティングを経営の根幹に据え、激変する市場の中で価値を認められる製品やサービスを提供するとともに、顧客が抱えている課題や問題を見つけ出し解決することにより、顧客とのきずなを深めながら、持続的に成長し企業価値を高めていきたいとの意を込めました。

※3 「FURUKAWA Power & Passion 150」
Power & Passionは「力強さ・スピード」と「熱意・情熱」という仕事に取り組む姿勢・想いを、赤の真円はお客さまとの輪・絆を結ぶことを、150はビジョン達成年度である150周年をそれぞれ表現したものです。



経営理念

古河機械金属グループは、鉱山開発に始まり社会基盤を支えてきた技術を進化させ、常に挑戦する気概をもって社会に必要とされる企業であり続けます。

行動指針

私たちは、経営理念を実現するために、「運・鈍・根」の創業者精神を心に刻み、「変革・創造・共存」を行動指針として実践します。

変革 未来に向けた意識改革により絶えざる自己革新を行う。

創造 市場のニーズに対応し、信頼され、魅力あるモノづくりを目指す。

共存 経営の透明性を高め、環境と調和した社会の発展に貢献する。

財務/非財務パフォーマンス

会計年度	2016/3	2017/3	2018/3	2019/3	2020/3	2021/3
売上高(百万円)	161,799	149,829	167,695	174,116	165,215	159,702
営業利益(百万円)	7,988	6,545	7,820	8,915	8,693	5,592
親会社株主に帰属する当期純利益(百万円)	5,056	4,254	4,774	4,654	4,431	7,468
1株当たり当期純利益(円)	125.13	105.29	118.16	116.23	112.23	190.73
自己資本当期純利益率(ROE)(%)	7.5	5.9	5.9	5.7	5.8	8.9
売上高当期純利益率(%)	3.1	2.8	2.8	2.7	2.7	4.7
総資産回転率(回)	0.8	0.7	0.8	0.8	0.8	0.7
CO ₂ 排出量(千t-CO ₂)	24	25	26	26	22	21
廃棄物総排出量(t)	6,832	5,347	6,884	7,160	7,039	5,912
従業員数(人)	2,521	2,616	2,690	2,757	2,755	2,752